循環器内科医のスポーツドクター回顧録

札幌市医師会
ソリス札幌クリニック
佐久間一郎（さくまいちろう）

FIFAワールドカップ2026の実況放送があった日、私のサッカー審判員の恩師である沖野隼夫先生とお話をする機会があった。先生は室蘭ご出身で、東京教育大時代にアジア・ユース大会に出場された。卒業後北海道の高校教員となり、１級審判員として日本サッカー協会審判インスペクター等として活躍された。札幌北高等学校校長で退職されたが、北海道サッカー協会で長く審判委員長を務めておられた。

私が「先生、ワールドカップは観ておられますか」と尋ねると、「はい、全試合観ていますよ。そういえば、前回アメリカでワールドカップがあった時は、佐久間さんも一緒にアメリカで決勝戦を観たよね。」･･･すっかり忘れていた。32年前、1994年のパサデナでの決勝戦はブラジル対イタリアで、ワールドカップ決勝史上初のPK戦となり、イタリアのロベルト・バッジョがPKをゴール左上にふかして失敗し、ブラジルが優勝した。当時私は北海道サッカー協会医事委員長で、北海道サッカー協会会長他４名と、ロサンゼルスへの決勝戦観戦ツアーに参加していた。

そういえば、24年前の2002年コリア・ジャパンでは、横浜で決勝戦を観戦したことも思い出した。そこで私の循環器内科医のスポーツドクターとしての40年間を振り返り、今後、医師としてワールドカップを現地観戦する可能性を若手の先生方にご指南すべく、老婆心ながら本投稿を思い立った。

私のスポーツ歴

高校時代：札幌南高等学校ではボート部だった。当時札幌南高と北高にはボート部があり、茨戸湖でナックルフォアを漕いでおり、私はコックスをしていた。

大学時代：北大医学部サッカー部に入部した。東医体では学部１年時に優勝し、私はバックスであったが、審判員を目指して学部３年時には２級審判員となった。

医師・循環器内科医となってから：１級審判を目指し、毎年30試合以上主審をしたが合格せず、48歳で走れなくなり審判員は定年とした。

日本体育協会（現：日本スポーツ協会）公認スポーツドクター：札幌逓信病院整形外科・菅原誠先生（現松田整形外科記念病院理事長）のご指導で1985年９月に取得（２期生）。1986年３月１～８日、第１回冬季アジア大会日本選手団(岡野俊一郎団長、主将は橋本聖子選手）のチームドクターとして選手村の札幌プリンスホテルに宿泊した（生後１週間の娘と出産直後の妻を自宅に残し）。その後北海道マラソン医事担当（1996～2023、2011～2023統括責任者)、北海道スポーツ協会スポーツ科学委員会（1987～委員、2023～委員長)、女性アスリート健康サポート北海道（2019～2025監事・特別顧問、2025～会長）などを歴任。

札幌サッカー協会理事・医事委員長：1985年９月19～21日、中国・瀋陽市で開催された、札幌・瀋陽友好都市提携５周年を記念した少年サッカー交流試合に副団長・随行医師として参加（団長は札幌市助役)。札幌市中学校選抜チームは瀋陽市とミュンヘン市のチームに勝って優勝した。

北海道サッカー協会理事・医事委員長（1985～2003）として

後に「キャプテン翼」で有名となった全日本少年サッカー大会に、本部ドクターとして10年間ほど帯同した。当時同大会は毎年８月の第１週に東京・稲城市のよみうりランド（読売クラブ）で開催されており、競技中および全チームが宿泊したランド内施設の医事対応に従事した。

Ｊリーグ・ドーピングコントロールコーディネーター（DCO）(2002～2016)。FIFAワールドカップ2002 Korea-Japanでは日本サッカー協会医事委員会所属医師がDCOを担当することとなり、大会前にＪリーグ（J1、J2）でドーピングコントロール業務の経験を積み、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のDCO資格を取得した。全国の競技場に出向き、試合終了後各チーム２名、計４名の採尿を行い、サンプルを郵便局から検査施設へ発送する業務であった。

FIFAワールドカップ2002・DCO。札幌ドームで開催された３試合のドーピングコントロールを担当した。試合は正面VIP席で観戦でき、試合終了後はドーピングルームで採尿と採血（当時はあった）を行った。静脈がみえない黒人選手の採血も無事完了できた。

JADA・シニアDCO（2011～2016)、Ｊリーグ National Federation Representative（NF Rep 2016～)。その後、同一競技のドーピングコントロール業務を担当できなくなり、NF Repがサッカー協会の責任者として業務に参加している。

FIFAワールドカップ2002の決勝戦は、ドーピングで何回か訪れていた横浜国際総合競技場で行われ、チケットは日本サッカー協会から入手することができた。

FIFAワールドカップへの関わりを望まれる先生方へのアドバイス

これからワールドカップへの関わりを望まれる先生方は、まず日本スポーツ協会公認スポーツドクターを取得し、さらに日本アンチ・ドーピング機構のDCOとなることをお勧めする。サッカーでは地区協会もしくは都道府県協会の医事委員、できればNF Repにもなること、他のスポーツ競技では、自身の競技団体の医事委員となり、さらにドーピングにも関与することであろう。Ｊリーグを担当していれば､2030～40年代に日本で再びFIFAワールドカップが開催された際に呼ばれる可能性があると思われる。FIFAはドーピング検査員は医師でなければならないとしている。さらに世界アンチ・ドーピング機構のDCOやFIFAのDCOとなると良いであろう。